

キリストを新約のヨベルの実際として享受する

聖書：レビ 25:8-17. イザヤ 61:1-3. ルカ 4:16-22. 使徒 26:16-19

ヨベルの 予言、成 就、 祝福の記 載	I	レビ記第 25 章、イザヤ第 61 章、ルカ第 4 章の成就と宣言	A. 二つの主要な祝福:所有地(神)に帰る、家族(神の家)に帰る B. ヨベルは一年間続くことは新約時代全体を指しています C. ヨベルを享受する三つの時代——恵の時代、千年期、新エルサレム
意義	II	新約のヨベルは、わたしたちの救いを狂喜する時代	A. クリスマスは、狂喜する人です B. ヨベルの意味は、悩み思い煩いが無く…何の問題もなく… C. 主イエスを真のヨベルとして受け入れる D. 内側のキリストを享受する
例証	III	ルカ福音書のヨベルの告げ知らせの卓越した例証	A. ルカ 10 章の良きサマリア人のたとえ B. ルカ 15 章の放蕩息子のたとえ
実際生活	IV	キリストを、新約のヨベルの実際として享受する生活	A. 主の足もとに座って、主の言葉に聞き入ったというマリアの模範に従う B-E. パウロの模範、命を与える霊としてのキリストを享受する F. 真のヨベルの生活をすることと、ヨベルを宣べ伝える必要

ヨベルの予言の成就

I. レビ記第 25 章 8 節から 17 節のヨベルの年は、イザヤ書第 61 章 1 節から 3 節で予言として記載されており、ルカ第 4 章 16 節から 22 節で実際に成就されています:

*ヨベルの年の二つの主要な祝福

- A. ヨベルの年には、二つの主要な祝福がありました。それは、それぞれの人が自分の失われた所有地に帰ることと、奴隷状態からの解放です——レビ 25:8-17:
1. ヨベルの年には、自分の所有地、すなわち、良き地の割り当てられた分け前を売ってしまったすべての人は、それを買い戻すのに何も支払うことなく、自分の所有地に帰りました (10, 13, 28 節)。また自分自身を奴隷状態へと売ってしまったすべての人は、再び自由を得て、自分の家族に帰りました (39-41 節)。
 2. 自分の所有地に帰り、自由にされて、自分の家族に帰ることが表徴しているのは、新約のヨベルにおいて、信者たちが彼らの失われた神聖な所有地としての神に帰り、すべての束縛から解放され、彼らの神聖な家族としての召会に帰ったということですから——エペソ 1:13-14. ヨハネ 8:32, 36. 参照、詩 68:5-6。

*恵みの時代(新約時代全体)において成就する

- B. 旧約の予表において、ヨベルは一年間、続きました。しかし、その成就において、それは新約時代全体、恵みの時代を指しています。これは、帰ってきた罪の捕囚を神が受け入れる時であり (イザヤ 49:8. ルカ 15:17-24. II コリント 6:2)、罪の束縛の下で圧迫されていた者たちが神の救いの解放を享受する時です (ローマ 7:14—8:2)。

*ヨベルを享受する三つの時代——恵の時代、千年期、新エルサレム

- C. 信者たちが恵みの時代にヨベルを享受すること (彼らに対する神の恵みとしてのキリストを享受すること)は、千年期におけるヨベルに対する満ち満ちた享受をもたらし、また新しい天と新しい地の新エルサレムにおける最も満ち満ちた享受をもたらします——ヨハネ 1:16-17. ローマ 5:17. ピリピ 3:14. 啓 22:1-2 前半。

ヨベルの意義(定義):

***新約のヨベルはわたしたちの救いを狂喜する時代です。**

***恵みの言葉によってわたしたちの中へと分与され享受となる時代です**

- Ⅱ. ヨベルの年は、恵みとしてのキリストが、彼の恵みの言葉によってわたしたちの中へと分与されて、わたしたちの享受となる時代です。新約のヨベルは、わたしたちの救いを狂喜する時代です——ルカ 4:22. 詩 45:2. ヨハネ 1:14-17. Ⅱコリント 6:2:

***クリスチャンは、神の恵みの言葉を享受し、神の御前で狂喜する人です**

- A. 新約時代は、狂喜する時代です。クリスチャンは、狂喜する人です。もしわたしたちが神の御前で一度も狂喜したことがないなら、これは、わたしたちが神に対する十分な享受を持っていないことを示します——Ⅱコリント 5:13. 使徒 11:5. 22:17. 詩 43:4 前半. 51:12. Iペテロ 1:8. イザヤ 12:3-6。

***「ヨベル」の意味は…すべての事はわたしたちの心を喜ばせ、満足させ、不安がなく…興奮し、歓喜していることです**

- B. 「ヨベル」の意味は、悩みや思い煩いがなく、心配や気がかりがなく、欠け目や欠乏がなく、病や災いがなく、何の問題もなく、あらゆる益を受けることです。このゆえに、すべての事はわたしたちの心を喜ばせ、満足させ、そしてわたしたちには不安がなく、わたしたちは安心し、興奮し、歓喜しています——詩 103:1-5. 116:1-7, 12-13, 17-19。

***わたしたちは、主イエスを真のヨベルとしてわたしたちの中に受け入れなければなりません。また彼によって生きることで、ヨベルの実際の中で生きます。**

- C. わたしたちは、主イエスを真のヨベルとしてわたしたちの中に受け入れなければなりません。わたしたちは彼を持つなら、わたしたちの所有地としての神を持ち、罪とサタンの束縛から救い出されて、真の自由と安息を持つことができます——使徒 26:18. エペソ 1:13-14. コロサイ 1:12. マタイ 11:28. ヨハネ 8:32, 36:
1. わたしたちがキリストをわたしたちの救い主また命として受け入れるとき、彼はわたしたちの中へと入って来て、わたしたちのヨベルとなります。しかし、わたしたちが彼にわたしたちの中で生きていただかないなら、またわたしたちが彼によって生きないなら、わたしたちは実際にヨベルの中に生きていません——11-12 節。
 2. もしわたしたちの心が主以外の人、事、物に置かれているなら、これは偶像礼拝です。その終局は苦悩です——Iヨハネ 5:21. 参照、エゼキエル 14:3, 5. 6:9。
 3. わたしたちがキリストにわたしたちの中で生きていただくなら、またわたしたちが彼によって生きるなら、あらゆる事はわたしたちにとって満足のいくものとなります。そうでなければ、あらゆる事は問題となり、すべてはヨベルではなくなります。

***ただ、内側のキリスト(神の言、神の恵みの言)を享受することで、あらゆる事はわたしたちにとって満足のいくものとなることができます。**

- D. わたしたちがすべてを含むキリストを得て、わたしたちの享受とした後はじめて、あらゆる事はわたしたちにとって満足のいくものとなることができます。わたしたちがあらゆる種類の環境に直面するとき、わたしたちを静ませ、悩みから解くことができるのは、外側の人、事、物ではなく、わたしたちの内側のキリストです——ピリピ 3:8-9. 4:5-8, 11-13。

ルカ福音書のヨベルの告げ知らせの卓越した例証

- Ⅲ. ルカ第 4 章におけるヨベルの告げ知らせは、ルカによる福音書全体の中心思想を支配します。ルカ第 10 章における良きサマリア人のたとえとルカ第 15 章における放蕩息子のたとえは、ヨベルの卓越した例証です:

***良きサマリア人のたとえ**

- A. 良きサマリア人のたとえにおいて提示された人・救い主は、彼の神聖な属性と人性の美德との表現を表徴しています——ルカ 10:25-37:
1. 人・救い主は、失われた者を尋ね求め罪人を救う彼の務めの行程において (19:10)、ユダヤ教の強盗どもに傷を負わせられた犠牲者が、悲惨な、死にかかっている状態になっていた場所へ下って来ました。

2. 人・救い主は彼を見ると、彼の神性を伴う人性の中で深く同情し、優しいいやしと救いの顧みを彼に与えて、彼の緊急の必要に完全に応じました——10:33-35。

*放蕩息子のたとえ

- B. 放蕩息子のたとえにおいて提示された人・救い主は、彼の牧養し、尋ね求め、救う霊を、御父の愛し、赦し、あわれむ心と共に示しています——15:11-32. 参照、9:55-56:
1. ある日、放蕩息子は、自分の所有と父の家に戻りました。それはヨベル、すなわち自由であり、あらゆる事は、喜ばしく満足のいくものとなりました——15:20, 24. 参照、レビ 25:10-12。
 2. 救われることは、わたしたちの嗣業に戻り、神に戻り、神に帰り、神をわたしたちの所有として新しく享受することです（エペソ 1:13-14）。救われることは、神を獲得することです。わたしたちは神を持つとき、あらゆるものを持っています。神がなければ、わたしたちは何も持っていません（コロサイ 1:12）。
 3. 神はキリストにあって、わたしたちの祝福の分け前となりました。しかし、多くのクリスチャンは喜んでおらず、輝いていないライトのようです。なぜなら、彼らは「スイッチを入れる」ことをしないで、神を自分たちの分け前としないからです——エペソ 4:18. ピリピ 2:12-16。
 4. 父が息子を受け入れたことと、息子が父と父の家に戻ったことは、息子にとってヨベルの年、すなわち、恵みの年でした——ルカ 15:20。
 5. 神はキリストにあって肥えた子牛となり、悔い改めて戻ってきた放蕩息子の享受となりました——23 節。
 6. これはレビ記第 25 章 11 節から 12 節と一致します。これらの節は、人々がヨベルの年に、まいたり刈り取ったりしてはならず、ただ食べて享受しなければならなかったと言っています。いったんわたしたちが悔い改めて、神に戻り、主イエスを受け入れるなら、わたしたちは内側で神を得ます。これがわたしたちのヨベルの開始です。
 7. わたしたちは、御父に雇われたしもべではなく、彼の享受する子たちです。わたしたちは今から永遠に至るまで、絶えず神をわたしたちの所有として享受することができます。

キリストを、新約のヨベルの実際として享受する生活

IV. わたしたちはキリストを、新約のヨベルの自由と祝福の実際として享受する必要があります——ルカ 4:18-19:

*主の足もとに座って、主の言葉に聞き入ったというマリアの模範に従う

- A. わたしたちは、キリストをヨベルの実際として享受するために、日ごとに主と時間を費やして、彼の言葉に聞き入り、彼で注入される必要があります。わたしたちは、主の足もとに座って主の言葉に聞き入っていたマリアの模範に従う必要があります——ルカ 10:39:

(主イエスの)

1. マリアは他のだれの足もとでもなく、「主イエス」の足もとにいました。彼女は主に近づいていました。時々刻々、主に来て、主を愛し、主を礼拝し、絶えず主と交わり、主の臨在の中にとどまることよりも良い方法はありません。

(足もとに)

2. マリアは主の「足もとに」座っていました。このことが意味するのは、彼女が自分自身をへりくだった地位に置き、主を恵みとして受けたということです（I ペテロ 5:5）。へりくだるとは、自分自身を見下げることはありません。へりくだるとは、自分自身を見ないこと、自分自身をなくすこと、自分自身が無であると考えことです。

(座って)

3. 彼女は「座って」いました。主の御前で静まることはしばしば、霊的な力の源です（イザヤ 30:15 前半）。人の目と思考はしばしば、外の世界にそらされます。さまざまよう思いと定まらない思考に忙しい者たちは、容易に啓示を受けることができます。

(主の言葉に聞き入って)

4. 彼女は「主の言葉に聞き入って」いました。主が語る言葉は霊であり、命であって（ヨハネ 6:63）、彼ご自身を人の中へと分与します。彼女が主の言葉に聞き入っていたことは、主がご自身を彼女に伝達する機会を彼に与えました。それによって彼女は絶えず主を受け、主を獲得しました。

B-E パウロの模範——命を与える霊としてのキリストを享受する

*人は神を享受することで、真の自由を持つことができます

- B. 神の救いは、わたしたちに真の自由を持たせます。わたしたちの所有は神であり、わたしたちの自由は、わたしたちが神を享受することから来ます。人は神を享受しなければ、真の自由を持つことはできません。自由の意味は、解放です。すなわち、すべての束縛、すべての重荷、すべての圧迫、すべての奴隷状態から自由にされることです——ヨハネ 8:32, 36. ガラテヤ 5:1. II コリント 3:17.

*わたしたちの非合法的な主人(サタン)の捕虜となり、罪と死の法則に支配されていた

- C. まず、サタンはわたしたちを捕らえました。それから彼はやって来て、わたしたちの中に住み、わたしたちの罪をかき立てる者、扇動する者となりました。その結果、彼はわたしたちの非合法的な主人となり、わたしたちは彼の捕虜となってしまいました。そしてついには、わたしたちは善を行なうことができなくなり、ただ罪を犯すことしかできません——ローマ 7:14. I ヨハネ 5:19 :
1. 人が神を持っていなければ、人が神以外に享受しようとするものは何であれ、犬のえさ、ちりあぐた、ふん土です——ピリピ 3:7-9. 参照、II ペテロ 2:22.
 2. サタンはベルゼブルと呼ばれ、その意味は「ふん塚の君」です。この名の源は、「バアル・ゼブブ」であり、その意味は「はえの君」です。サタンは罪人を導くことを専門としており、それは、はえがふん土を食べるのと同じです——マタイ 10:25. 12:24, 27. 列王下 1:2.
 3. 人はだれも心の深みで、罪を犯したいとは願っていませんが、最終的にあらゆる人は罪を犯します。だれも自分を制御できず、あらゆる人が罪の奴隷となっています——ローマ 7:18-23. ヨハネ 8:34.

ヨベルの実際としての命の霊の法則を享受する

*パウロの切迫した叫びが答えられる

- D. ローマ第7章24節のパウロの切迫した叫びは、ローマ第8章2節で答えられています。その節は、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしたちを解放すると言っています。

*その霊の法則による解放

- E. わたしたちは、命を与える霊としてのキリストを享受することによってのみ、解放され、真の自由を持つことができます。神を享受する者だけが、罪を犯さず、真に自由であり、自由の生活、解放の生活、束縛のない生活をします——ヨハネ 8:11-12, 24, 28, 31-36 :
1. 命の霊の法則は、罪と死の法則からわたしたちを解放します。この法則は主ご自身であり、彼は死と復活を経過して、命を与える霊と成りました——ローマ 8:2.
 2. わたしたちは十分に主を享受しないなら、依然として多くの事で束縛の中にいます。決心することは役に立ちません。わたしたちは絶えず主に来て、彼を食べ、彼を享受しなければなりません——I コリント 1:9. 啓 2:7. イザヤ 55:1-2.
 3. ヨベルとしてのキリストは、わたしたちを窮乏、捕囚、盲目、圧迫から解放します——伝 1:2, 14. 3:11. ピリピ 3:8. II ペテロ 2:22. ルカ 12:21. 啓 3:17.

*真のヨベルの生活をする事と、

*恵みのヨベルとしてのキリストを生きし出し告げ知らせる

- F. ヨベルの生活は、キリストを享受する生活、すなわち、神をわたしたちの嗣業また真

の自由として享受する生活です——使徒 26:18. ヨハネ 8:36 :

1. ヨベルの生活は、わたしたちがあらゆる状況の中で、神ご自身、キリストご自身を取る生活です。その時、彼はわたしたちの中で主要な要因また中心となって、人生のすべての困難を克服します——ヨハネ 6:16-21. コロサイ 1:17 後半, 18 後半. ピリピ 4:6-7, 11-12。
2. あらゆる事は主の主権の下にあるので、わたしたちは祈るべきです、「主よ、わたしを満たし、わたしを獲得し、わたしを所有してください。わたしの外側の状況がどのようなであっても、わたしはただあなたを享受したいのです」。わたしたちは今日の奉仕者また証し人となって、福音（恵みのヨベルとしてのキリスト）を生き、告げ知らせ、神の永遠のエコノミーを完成する必要があります——使徒 26:16-19。

まとめの言葉	
ヨベルの時代	神の御前で狂喜する人
ヨベルの実際	キリストを所有地と自由として享受する
ヨベルの生活	キリストを主要な要因、中心とならせる
ヨベルを告げ知らせる	今日の奉仕者と証し人となる

